

Ⅱ－２ 次の２設問（Ⅱ－２－１，Ⅱ－２－２）のうち１設問を選び解答せよ。（解答設問番号を明記し，答案用紙２枚以内にまとめよ。）

Ⅱ－２－１ 近年，我が国においては，地域資源の活用と水産業・漁村の有する多面的機能の発揮が求められている。あなたが担当者として多面的機能を活かした漁港・漁場・漁村の整備計画の策定業務を進めるに当たり，下記の内容について記述せよ。

- (1) 着手時に調査すべき内容
- (2) 着手時に留意すべき事項
- (3) 業務を進める手順
- (4) 業務を進める際に留意すべき事項

Ⅱ－２－２ 水産資源の持続的な利用や豊かな自然環境の次世代への継承のため，漁港・漁場施設の整備においては自然環境に配慮した構造や配置の検討が求められている。あなたが担当者として自然環境に配慮した漁港・漁場施設の計画あるいは設計業務を進めるに当たり，下記の内容について記述せよ。

- (1) 着手時に調査すべき内容
- (2) 着手時に留意すべき事項
- (3) 業務を進める手順
- (4) 業務を進める際に留意すべき事項

1、自然環境に配慮した漁港漁場施設の必要性

漁港整備においては、防波堤や護岸等の構造物が岩礁性の大型海藻の繁殖基盤や水産有用生物・磯根資源の生息の場となる可能性を有しており、それらの構造に藻場機能等を付加することが、水産資源の増殖、沿岸域の環境保全・創造上極めて有効である。

2、着手時に調査すべき内容

ア) 藻場分布及び環境の概況把握

海域ごとに藻場の分布状況並びに環境条件の概要をヒアリングや既存資料等によって取りまとめ、海藻に適した環境や構造を検討するための基礎データとする。

イ) アンケート調査

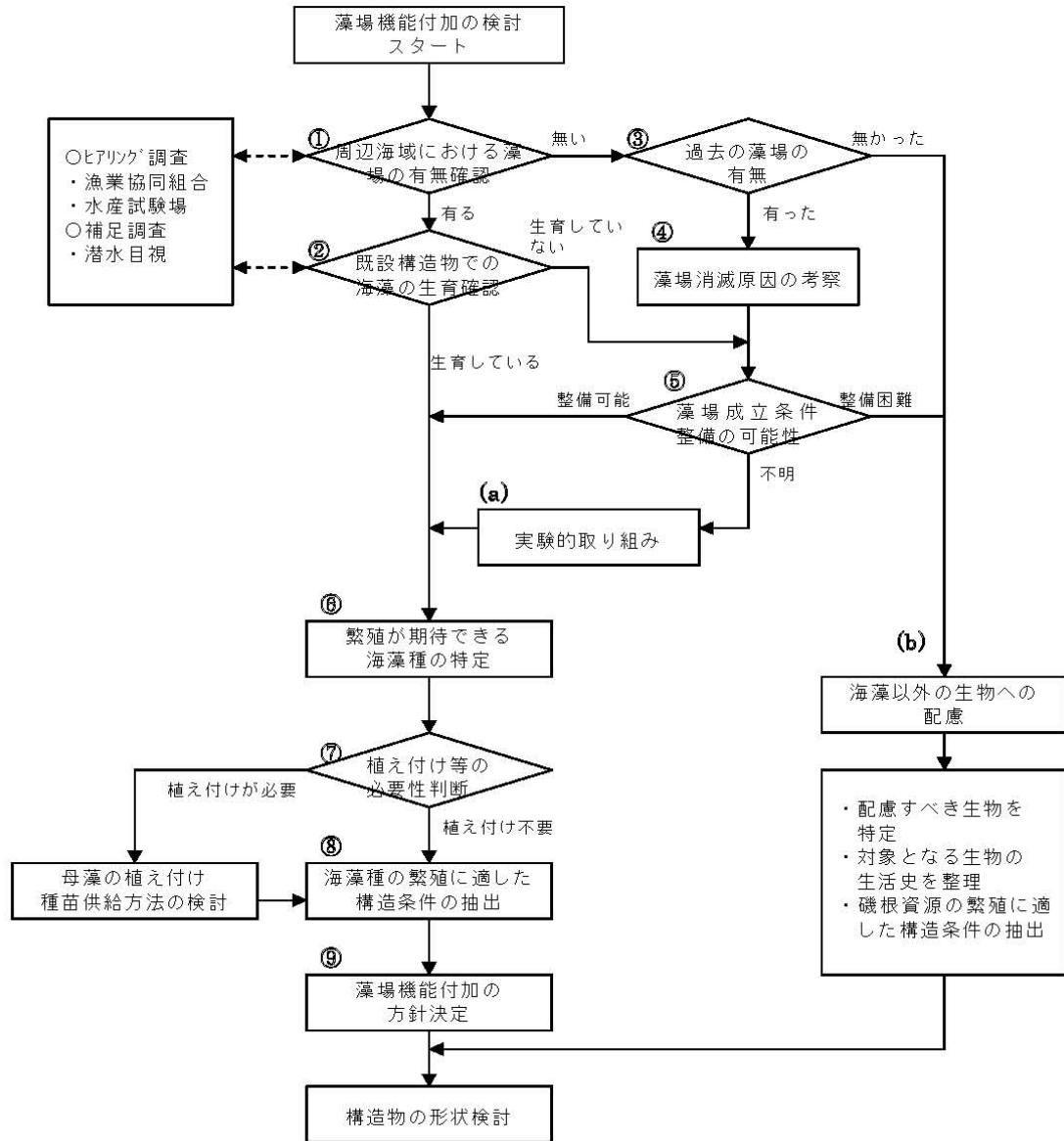
対象となる沿岸市町村にアンケート調査を実施し、既存の漁港構造物上での海藻の有無、藻場造成の成功事例、食害による磯焼の発生状況、藻場造成上の問題点等の地域特性の把握を行う。

3、着手時に留意すべき事項

藻場機能付加は、防波堤等に藻場の生育に適した環境を人為的に創出するものであり、これまでの防災、経済性や効率を重視した計画・設計と異なる考え方を適用する必要がある。また、自然を模倣する視点で、地域の特性に応じ、柔軟な考え方で検討・計画を進めなければならない。

4、業務を進める手順

自然環境に配慮した漁港漁場施設の計画手順を以下のフローで示す。



4、業務を進める際に留意すべき事項

海藻の種苗を人為的に供給してやるなどのソフト面での支援として、海中造林などの成果を踏まえ、人為的な海藻の植え付けや種苗の供給方法についても併せて検討すべきである。— 以上 —